

めざせ世界遺産登録

あなたも参加団体で
活動しませんか？

検定を通じて鎌倉の再発見！

鎌倉検定市民の会

「鎌倉ファンを増やそう」と「市民に鎌倉の再発見を」という二大目標を掲げ、平成17年に前身となる「鎌倉検定実現を目指す会」を立ち上げました。多くの関係諸団体に働きかけ、翌年に第一回の検定が実施されることになり、名称を「鎌倉検定市民の会」と改称して、鎌倉検定のサポートをしています。

当初は不定期に鎌倉散策を企画していましたが、参加者からの希望もあり、昨年から「鎌倉検定歩き学び塾」を始め、月一回の座学とフィールドワークを行っています。現在では、鎌倉市民を中心に他市からの参加者も広がり、二期生約70名の方々が楽しく学んでいます。「机上での学習後、実地で本物を見て歩くことで理解が深まり、鎌倉を世界遺産として価値あるものと再確認する機会にもつながった」と好評です。

代表の大津理津子さんは「塾生の間でも世界遺産登録への期待の声は大きく、ますます関心を高めています。塾生以外も参加できるバスツアーやハイキングを年数回開催していますので、ご興味のある方はご連絡ください」と話されていました。



北鎌倉ハイキングにて

お問合せは大津さん
☎080-6658-9257
までどうぞ。

<http://kamakurakentei.cocolog-nifty.com/>

中学生作文コンクールで登録推進を後押し

鎌倉市青少年指導員連絡協議会



第3回作文コンクール授賞式。市議会本会議場にて

地域社会の中で青少年健全育成を推進支援するために、市内の自治町内会長からの推薦により、神奈川県知事と鎌倉市長から委嘱を受けた70名の指導員(定員は75名)が、年間を通して多様な活動に取り組んでいます。

鎌倉世界遺産登録推進に若い力も協力しようと、平成19年に第1回「鎌倉世界遺産登録推進に向けての中学生作文コンクール」を主催したところ、564名(平成20年の第2回は323名)の応募があり、大変好評で、各方面の方々から激励が寄せられました。

平成21年の第3回は当会と推進協議会の主催、鎌倉市の共催で「鎌倉八百年の歴史を世界遺産に」というテーマに対して559名から力作・秀作が集まりました。

過去2回の表彰式・発表会は御成小学校で開催しましたが、今回は市役所・市議会の協力で、昨年12月12日(土)に市議会本会議場での開催を実現できました。石井会長は、「表彰を受けた18名はもちろん、応募した皆さん全員にとっても貴重な思い出になったと思います。世界遺産登録実現までこのコンクールを継続実施していこうと考えています」と話されていました。

古都鎌倉の世界遺産登録って

なに？

第14回 切通はどんなところ？

鎌倉の三方を囲む丘陵部に残る切通は、武家政権の都・鎌倉へ出入りするために、文字通り山を切り開いて通した交通路でした。中でも、朝夷奈切通・名越切通・亀ヶ谷坂・大仏切通・飯粧坂の5つの切通は、武家による鎌倉の交通路支配の状況を示す重要な史跡であることから、世界文化遺産の候補資産になっています。

これらの切通は、鎌倉の都市としての発展にともない活発になった人の交流や物資の流通等に対応するため、交通路として主に鎌倉幕府により整備されました。しかし、交通路という性格から、鎌倉の防衛上も重要な場所となったため、切岸や平場など防御的な造りが施されたり、切通付近に有力な御家人の館が配置されました。

また、切通周辺にはやぐら群や茶毘跡などの遺構が確認されており、葬送の地でもあったことが窺えます。さらに、名越切通や大仏切通周辺には、高さ15〜20m以上にわたって垂直に切り落とされた切岸が存在することから、鎌倉石の切り出しが行われた生産の場であった可能性も指摘されています。

このように、多様な性格を有する切通のうち、旧状をよく留める朝夷奈切通・名越切通・亀ヶ谷坂・大仏切通・飯粧坂の5つの切通は、武家による鎌倉の交通路支配の状況を示す重要な史跡であることから、世界文化遺産の候補資産になっています。

News! the 世界遺産

「鎌倉世界遺産登録推進に向けての中学生作文コンクール」

鎌倉市青少年指導員連絡協議会と推進協議会の主催、鎌倉市の共催で行われました。第3回のテーマは「鎌倉八百年の歴史を世界遺産に」というものです。

鎌倉市内の中学校から559作品が寄せられ、18人の

入賞者が決定。平成21年12月12日に、鎌倉市議会本会議場で表彰式と朗読発表会が行われました。以下に最優秀作品をご紹介します。

「鎌倉八百年の歴史を世界遺産に」

【最優秀賞】 大船中学校 3年 小山 歩美

私の住む鎌倉は、世界遺産に登録されることを目指している。世界遺産とは何か。そして、登録されることの意義について考えた。

世界遺産条約は1972年第17回ユネスコ総会で採択された条約で、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」だ。世界遺産とは、この条約に基づいて登録された文化遺産や自然遺産のことである。日本では、屋久島や白神山地が自然遺産として、法隆寺地域の仏教建造物群や白川郷・五箇山の合掌造り集落などが文化遺産として登録されている。

ここ鎌倉は、源頼朝が武士による新しい政治を行うため幕府を開いた土地で、八百年以上の歴史を持つ。源氏の守護神であり、將軍になるときの儀式をはじめ、幕府の政治的儀式なども執り行われた鶴岡八幡宮。頼朝の妻政子の安産を祈り造られた参道で、桜並木やさつきの美しい段葛。わが国最初の禅宗寺院建長寺や元寇の終わった後戦死した敵味方の霊を慰めるため建てられた円覚寺などの寺院。奈良の大仏に次ぐ、約11メートルの高さを持つ、浄土信仰の長谷の大仏。鎌倉では、これら国宝や重要文化財などの歴史的建造物が人々の日常生活の中にあり、親しまれている。

電車で帰ってきたとき、北鎌倉駅が近くなると私は心がほっと落ち着くのを感じる。家が近くなったというのも勿論あるが、都心からわず

か1時間弱の距離にあるとは思えないほど豊かな自然があるからだ。左手には円覚寺・六国見山から鶴岡八幡宮にかけて、右手には台峰の、木々の緑が目に見えるからだ。しかし、この自然も開発の脅威にさらされたことがある。昭和30年代の後半、「御谷」と呼ばれる鶴岡八幡宮の裏山が宅地造成されようとしたのだ。これに鎌倉市民が立ち上がり、「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法」が成立した。一般に古都保存法と呼ばれるこの法律は鎌倉での自然保護活動を契機につくられた。これにより、神社・寺院と一体となった景観を作り出し、見るものに安らぎを与える自然が守られたのだ。

世界遺産に登録されると、観光地として今以上に多くの人が訪れるだろう。鎌倉は道が狭く渋滞など解決すべき問題も出てくるだろう。しかし、私は世界遺産に登録されることを望む。座禅をとおして自らを見つめ、武士道の元となる武芸に励み、敵味方の区別なく供養した武士達がいいたことを知って欲しい。そして、これらの歴史的建造物や豊かな自然をいつまでも変えることなく受け継いでいきたい。世界遺産とは、世界の国々で協力して貴重な遺産を保存しようとするもの。問題が生じたとき、鎌倉の人だけでなく、より多くの人々と問題を共有し解決を目指す。だから、世界遺産になることは重要だと私は考える。

松浦晃一郎さん(元ユネスコ事務局長)講演会とユネスコ無形文化遺産チャッキラコ公演のお知らせ

ユネスコ元事務局長の松浦晃一郎さんをお招きし「世界遺産登録の現状と課題」をテーマに講演会を行います。当日は、講演会とあわせて昨年ユネスコの世界無形文化遺産に登録されたチャッキラコの公演、松浦さんと角野栄子さん(作家)、伊藤玄二郎さん(鎌倉ペンクラブ副会長)とのパネルディスカッションを行う予定です。参加無料。先着順。

◆日時…6月12日(土)

14時～16時15分(開場13時30分)

◆場所…鎌倉生涯学習センター(きらら鎌倉)ホール

◆主催…鎌倉世界遺産登録推進協議会

◆後援…鎌倉ペンクラブ

お問い合わせは推進協議会事務局(☎0467-61-3849)まで。